



# 水と空気に着目した予防医学

医学博士 久保田史郎が提唱する  
クリーンメディケーション



水と空気と森の管理人  
医学博士 久保田史郎  
株式会社 風 (かぜ)  
久保田予防医学研究所

神水川 上流  
(しおいがわ)  
佐賀市富士町下無津呂

会員の皆様へ

日本では、新型コロナウイルス感染症を筆頭に手足口病・マイコプラズマ肺炎・溶連菌など原因不明の感染症が増えています。それらを防ぐには、先ず最初に空気の“汚れ”を疑うべきです。何故ならば、現代医学はエアコンの“埃”に付着した空気中の菌・ウイルスを見逃しているからです。

それらの予防には手洗いが重要と指導されていますが、手洗いでは空気中の汚れを除去することは不可能です。とくに新型コロナウイルス感染症（クラスター）は鼻腔感染が最も疑われることからエアコンからの空気感染を防がなければなりません。

厚労省・保健所がエアコンからの空気感染に警鐘を鳴らさない限り、コロナの感染拡大を防ぐことが出来ません。空気を洗い空気感染を防げば、その他の原因不明の皮膚感染症・インフルエンザ・アレルギー性疾患・鼻炎・副鼻腔炎などの病気も自然消滅する筈です。

日本の医療は世界のトップクラスとされていますが、病気を治療するのは得意かも知れません。しかし、病気を未然に防ぐ予防医学に関する研究はお粗末と言わざるを得ません。日本は予防医学に目を向けなければ国民医療費は増え続け、日本経済は医療費の増加で沈没する可能性が出てきました。人間が健康に生きるために、クリーンな空気とクリーンな水が人類に如何に大事かを皆様にお伝えしたく、この小冊子を作製しました。皆様のお役に立てば幸いです。

医学博士 久保田史郎  
久保田予防医学研究所  
日本産科婦人科学会専門医

# 水と健康

人間は、水と空気なしでは生きていけません。体温を37℃に維持するための水（発汗作用）として、酸素と栄養を全身に運搬する血液として、尿を出す水として、成人では1日に必要とする水の量は約2リットルとされています。

昔、日本では井戸水などの地下水を飲むのが当たり前でしたが、環境汚染が進むにつれて都会では地下水が飲めなくなりました。一方、水道水は安全かという点、日本では水道水の微生物を殺菌するために大量の塩素が“無制限”に投入されています。水中の細菌を殺すための塩素が水道水を不味くし、人間の体（自然免疫活性）を蝕んでいることが、水の“見える化”によって分ってきました。

近年、日本では癌や原因不明の感染症が異常に増えていますが、何故だと思われませんか？ 私は水道（塩素）が原因の一つではないかと考えています。何故ならば塩素は免疫工場である腸内細菌叢（腸内フローラ）を破壊し、免疫力を低下させているからです。私たちがいつまでも元気に、健康を維持するためには何に気を付ければ良いのでしょうか。

今回は水と空気に焦点を当て、自然環境保護の大事さと、病気を防ぐための予防医学の重要性について述べさせていただきます。

## 水は本来“生き物”です

### 光合成の“見える化”

酸素

光合成の水 = 生き物 = 健康に良い

- ・原水に微細藻類が溶け込んでいる
- ・藻類の光合成作用で「溶存酸素」が上昇
- ・酸素濃度が高い程→美味しい・腐敗しにくい

生きた水

光合成  
(あり)

- 抗炎症 殺菌作用
- 腸内フローラ活性
- 免疫力アップ
- 水は“生き物”です！

★水の良し悪しは、水中に溶けている酸素の量（溶存酸素）が多いか少ないかで決まります！

★微細藻類が溶け込んだ水に、陽が当たると光合成が始まります。光合成によって水中の溶存酸素濃度が上昇すると、水は美味しく腐敗しません。

★溶存酸素濃度の高い水は腸内フローラを活性化させ、免疫力を高める作用を持っています。腸内フローラが増えると免疫力アップ、自然治癒力が増します。

★光合成する生きた水は予防医学の柱です

★水の光合成作用が皆様を健康に導きます。

- 水道水 ■加熱殺菌水 ■逆浸透膜水は光合成しない
- 水が光合成作用を失うと不活化 → 免疫力低下
- 溶存酸素の減少 → 不味い・腐敗しやすい

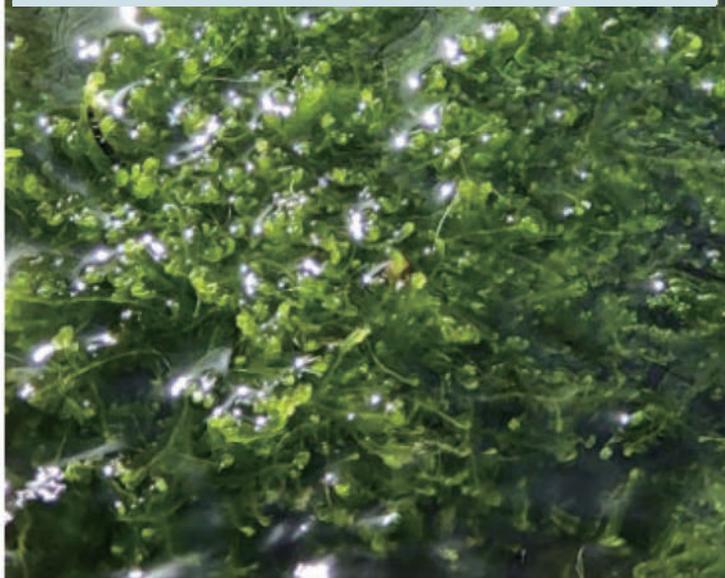
不活性の水

光合成  
(なし)

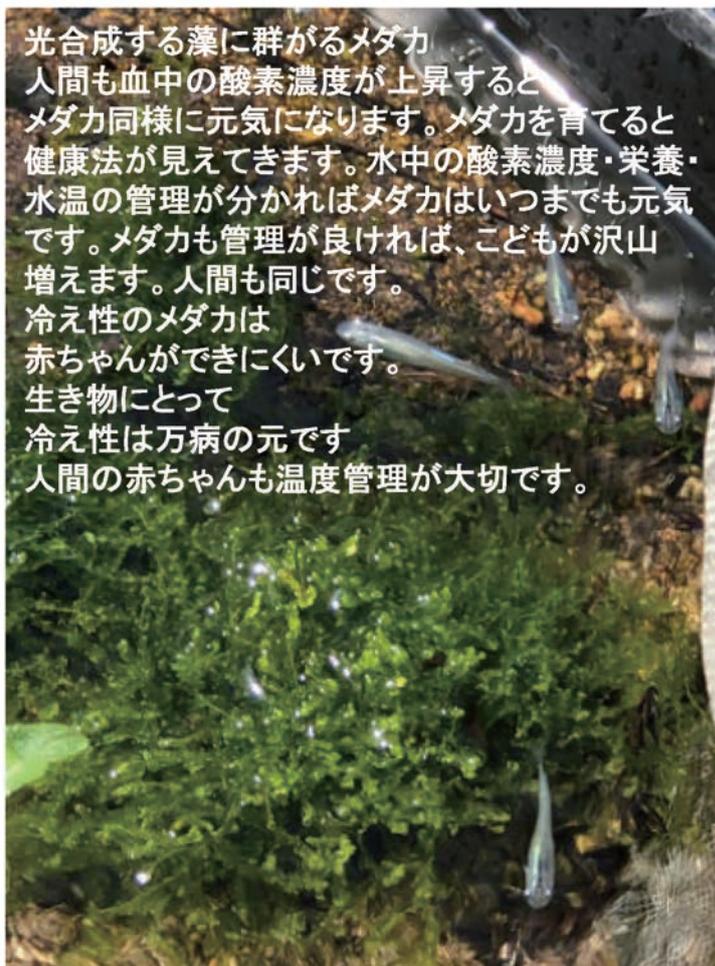
- 水は光合成しない（ただの水）
- 抗炎症・殺菌作用なし
- 腸内細菌不活化
- 免疫力低下 → “老い”が進む

# 光合成の役割

光合成する水は“生き物”です。塩素が沢山入った水道水にメダカを入れると動きが弱まりますが、ここ北山山荘の溶存酸素濃度の高い水に入れると活発に動き回ります。また「天使の希水」が美味しく、腐敗しない理由は光合成によって溶存酸素が増加するからです。写真の白く光っているのが光合成の現場です。光合成する水は殺菌作用があるだけでなく、病気を防ぐ免疫力を活性化します。



光合成する藻に群がるメダカ  
人間も血中の酸素濃度が上昇すると  
メダカ同様に元気になります。メダカを育てると  
健康法が見えてきます。水中の酸素濃度・栄養・  
水温の管理が分かればメダカはいつまでも元気  
です。メダカも管理が良ければ、こどもが沢山  
増えます。人間も同じです。  
冷え性のメダカは  
赤ちゃんができてにくいです。  
生き物にとって  
冷え性は万病の元です  
人間の赤ちゃんも温度管理が大切です。



## ワサビの殺菌作用は「光合成」の有・無が決めて

ワサビには殺菌作用があることが知られています。同じワサビでも光合成しない水で育ったワサビには殺菌作用があるとは思えません。光合成する生きた水で育ったワサビは鼻にツーンとくる辛さがあります。褥瘡などの皮膚感染症や鼻炎・アトピーなどに、この水をスプレーに入れシュシュと噴霧すると、それらの不快な症状はどれも改善します。光合成する溶存酸素濃度が高い水ほどおいしく、長持ちすることが知られています。この水で皮膚感染症や鼻炎が治るのは水が生きているからです。



溶存酸素がいっぱいの水で育ったクレソン春になるとワサビも、クレソンもいっぱいです。ここのワサビ・クレソンを食べると元気になります。水と空気がクリーンだからです。



# 日本の水は安全か？

## 水の安全を脅かす様々な脅威

日本は蛇口を捻れば安全に飲める水がどこでも無限に出てきます。しかし、その安全に飲める水道水やミネラルウォーターの源となる原水は、様々な物質に晒され加熱殺菌や除菌などの人工的な消毒工程を経ているのが現状です。皮肉にも安全に飲めるようになるための工程で私たちの健康が損なわれることも考えられます。日本では新型コロナや手足口病・溶連菌などの原因不明の感染症が増えています。もう一度原点に戻って、水の安全を考え直す時が来たのではないかと考えます。

## 水道水（塩素）の安全性について

日本の水道は塩素を無制限に大量に投入していますが、外国では上限値があり、国によってそれ以上は投与が禁止されています。日本の大量に投与された塩素が微細藻類の光合成作用を破壊し、溶存酸素を減少、免疫力を低下させています。水中の溶存酸素濃度の減少が免疫力を低下させ、見えないところで原因不明の病気（ガン・喘息・アトピー・鼻炎などのアレルギー性疾患）をつくり出していたのです。特に免疫力が低下した高齢者の皆様、新型コロナなど原因不明の感染症と闘ってられる皆様は、塩素が大量に入った水道水を避けられた方が無難です。私は医師として免疫力を上げる光合成する生きた非加熱天然水をお飲みになることをお勧めします。

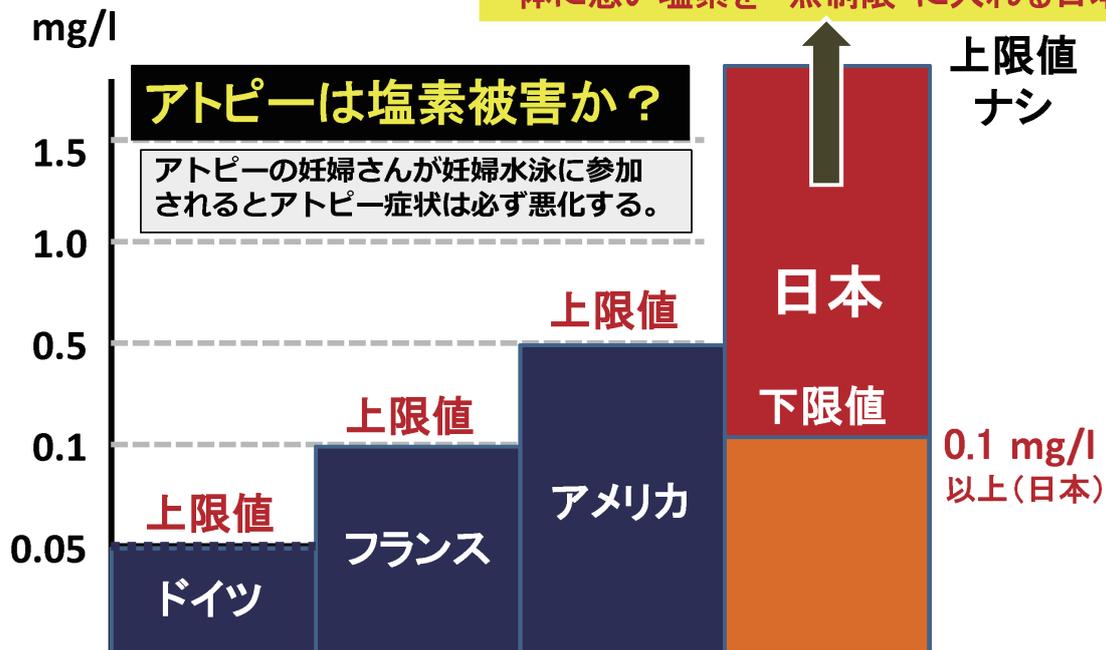
## 日本のミネラルウォーターは健康に良いか？

日本の国民医療費は毎年一兆円づつ増加しています。ミネラルウォーターの製造基準が外国と日本では全く異なっていることも医療費が増える要因の一つと考えられます。日本製のほとんどのミネラルウォーターはEUが禁止する加熱殺菌、逆浸透膜で人工的に除菌された非活化の水が販売されているからです。腐敗の早い非活化の水は免疫力を低下、原因不明の病気を増やしている可能性が高いのです。日本人の免疫力低下を防ぐためにも、ミネラルウォーターの製造基準を見直すべきではないでしょうか！

# 日本の水道水の「塩素量」は世界一

塩素は光合成する微細藻類(善玉菌)を死滅させる

体に悪い塩素を“無制限”に入れる日本



日本の水道水は、世界でも類を見ない高濃度の塩素が含まれており、諸外国と比較しても5～15倍程度多いと考えられる。日本で病気が増えるのは、塩素の影響か？ 塩素は免疫力を低下させるからです。

# 水道水（塩素）について

安全に飲める日本の水道水、実は塩素が大量に使用されています。塩素には強い殺菌作用があり、時には人体に悪影響を及ぼすことも、安心な生活を営む上で塩素の使用はやむを得ないことでもあります。しかし、日本の水道水は世界一の塩素投与量なのです。

## ■塩素の長所

強力な酸化力を持ち、タンパク質を破壊する。その作用で、大腸菌、コレラ菌、赤痢菌などの病原菌を殺菌し、水道水で疫病が蔓延することを防いでいる。

## ■塩素の短所

腸管（免疫工場）に害を与え、腸内細菌叢（腸内フローラ）を壊し、免疫力を弱める。

### ★塩素がもたらす人体への影響

- アトピー・喘息・鼻炎などのアレルギー性疾患を誘発
- 褥瘡などに見られる皮膚組織（細胞）を破壊
- 光合成のもつ科学反応を破壊
- 光合成のもつ殺菌力を低下させる
- 腸内細菌叢の破壊
- 免疫力の低下
- 原因不明の病気の増加



逆浸透膜で人工的に作られたRO水には光合成作用は認められなかった。人工的に作られた非加熱天然水は腐敗が早い。長期保存には不向き！



塩素は水中の細菌（悪玉菌）だけでなく、免疫力を上げる光合成作用の微細藻類（善玉菌）も死滅させていた。

# 光合成する天然水は美味しく、腐敗しない

市販のペットボトル（飲料水）

下記の飲料水はどれも光合成しない

- ・塩素の入った水道水
- ・加熱殺菌水
- ・逆浸透膜でろ過したRO水

## 光合成なし

- ・苔は底に沈んでいる
- ・酸素（光合成）がない
- ・浮力なし
- ・不味い

溶存酸素濃度の低下  
免疫力の低下・腐敗が早い

天使の希水（水は生きている）

水中（藻）に酸素がいっぱい

苔は酸素の浮力で  
浮いている

## 光合成あり

美味しい・水は生きている

長期保存可（最低10年）

## “光合成”する水と、しない水との比較

藻を入れたグラスに“不活性の水”と光合成する“生きた水”とを比較した

### ①不活性の水（福岡市の水道水）

- ・藻は底に沈んだ状態（浮力なし）
- ・3～4日経つと水が濁る、水の不活化
- ・日光に当てても藻から泡の発生がない
- ・光合成は行われていない⇒不活化
- ・溶存酸素の低下⇒不味い水
- ・免疫力の低下⇒感染症に弱い・癌が増える  
⇒加齢が進む

### ②生きた水（非加熱天然水＝天使の希水）

- ・藻は水面近くで浮いている（浮力あり）
- ・一月经っても水に濁りなし、
- ・藻の間からは酸素と思われる泡が発生
- ・光合成が行われている⇒生きてる証拠
- ・溶存酸素の上昇⇒美味しい水
- ・免疫力の上昇⇒感染症に強い・病気を防ぐ  
⇒加齢を抑制する

水はとてもデリケートな生き物で様々な加工の工程で、不活性になってしまいます

### \*加熱殺菌 \*逆浸透膜での濾過（RO水）

\*日本で市販されているミネラルウォーターの殆んどは上記工程を経ています。ところが、EUでは、加熱殺菌・逆浸透膜など一切の加工をせずに「自然のまま」であることが条件とされています。**EUは何故 加熱殺菌・逆浸透膜を禁止にしたのでしょうか？**

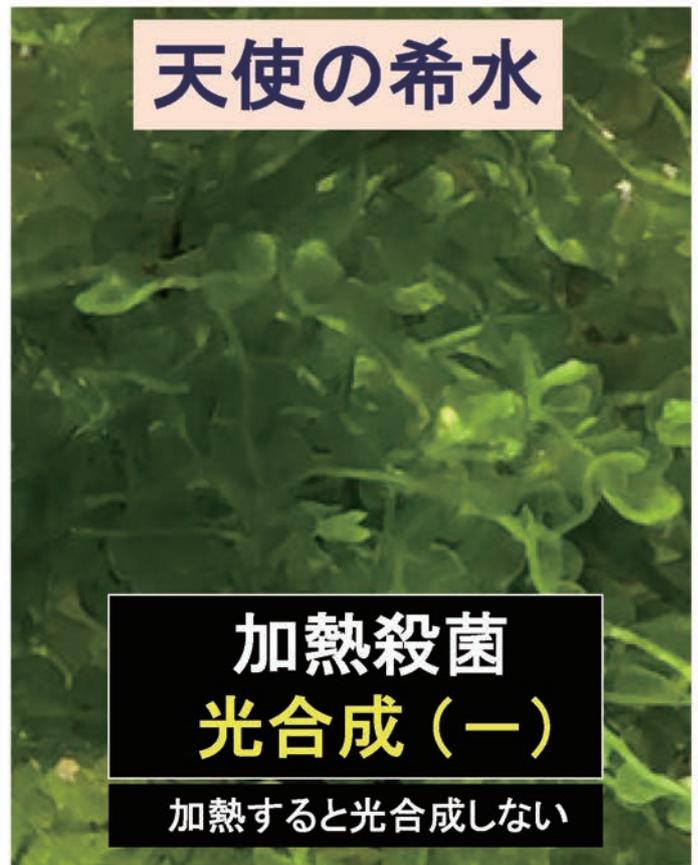
# 光合成する非加熱天然水は腐敗しない！

- ① 酸素を多く含んだ生きた非加熱天然水は  
**「腸の粘膜」を健康にする**
- ② 生きた水は腸内フローラ(善玉菌)を増やし、  
**「免疫力」をたかめる**
- ③ 溶存酸素濃度が高いほど水は美味しく長持ちする  
※ 溶存酸素(DO)とは、水中に溶解している酸素のこと
- ④ 溶存酸素は水の「自浄作用」にとって不可欠
- ⑤ 水中に「悪玉菌」がいると、溶存酸素は減少する  
※ 悪玉菌は水中の酸素を消費して増殖する、

藤田 紘一郎 著 書籍『水飲み“腸”健康法』30の秘訣』より



光合成する天然水は“生き物”  
生きた水は腸内フローラ(善玉菌)  
を増やし“免疫力”をたかめる。  
光合成(+)⇒溶存酸素↑⇒免疫力アップ



沸騰させた水は 光合成を失う  
水は“死んだ”のも同然！  
免疫力を上げるためには加熱せず、  
常温でお飲みください。

# 日本とEUのミネラルウォーター製造基準の違い

## (A) 日本:厚労省基準

原水:大腸菌群(陰性)、一般細菌(100/ml以下)

製品化する為には以下の方法で、一般細菌 20/ml 以下、亜硝酸態窒素「0.04 mg/L 以下」になるように義務化されている。

\* 原水を30分以上、85°Cで“加熱殺菌”する

\* 原水を逆浸透膜で“除菌”する

EU(CODEX)は厚労省が指導する加熱殺菌・逆浸透膜(除菌)を禁止している。

## (B) 海外:EUの基準(CODEXの国際規格)

- (1) 水源があらゆる「汚染」から完全に隔離、保護された「地下水」であること
- (2) 加熱殺菌・逆浸透膜など、一切の加工をせずに「自然のまま」であること
- (3) ミネラル成分や採水時の「温度」が一定であること
- (4) 採水地で「直接ボトリング」されていること
- (5) 「健康に良い」と認められていること

日本とEUでは製法が全く異なる。日本は原水を加熱殺菌するか、逆浸透膜で除菌を義務化している。一方EUは日本の加熱殺菌法・逆浸透膜法を禁止した。EUが厚労省基準を認めたくない理由は、日本の加熱殺菌法・逆浸透膜法は水中に溶けている藻類の光合成作用を失くし、免疫力を低下させ原因不明の病気が増えると判断したからであろう！

## 「原水」が下記の厚労省基準を満たしていれば、殺菌・除菌の必要はない

厚労省:規格基準の改正(平成26年12月22日)

★「天使の希水」は、下記の厚労省の規格基準を全てパス、加熱殺菌・除菌の必要がない事を承認されている。

### ★厚労省の規格基準

- (1) 一般細菌…… 5/ml以下
- (2) 芽胞形成亜硫酸還元嫌気性菌… 陰性
- (3) 緑膿菌…………… 陰性
- (4) 腸球菌…………… 陰性
- (5) 亜硝酸態窒素 基準値は「0.04 mg/L 以下」(新たに追加された)

### ★天使の希水(原水)

- ・一般細菌 0/ml
  - ・芽胞形成嫌気性菌 陰性
  - ・緑膿菌 陰性
  - ・腸球菌 陰性
- (佐環検食第 00797-01号  
2018年9月14日)

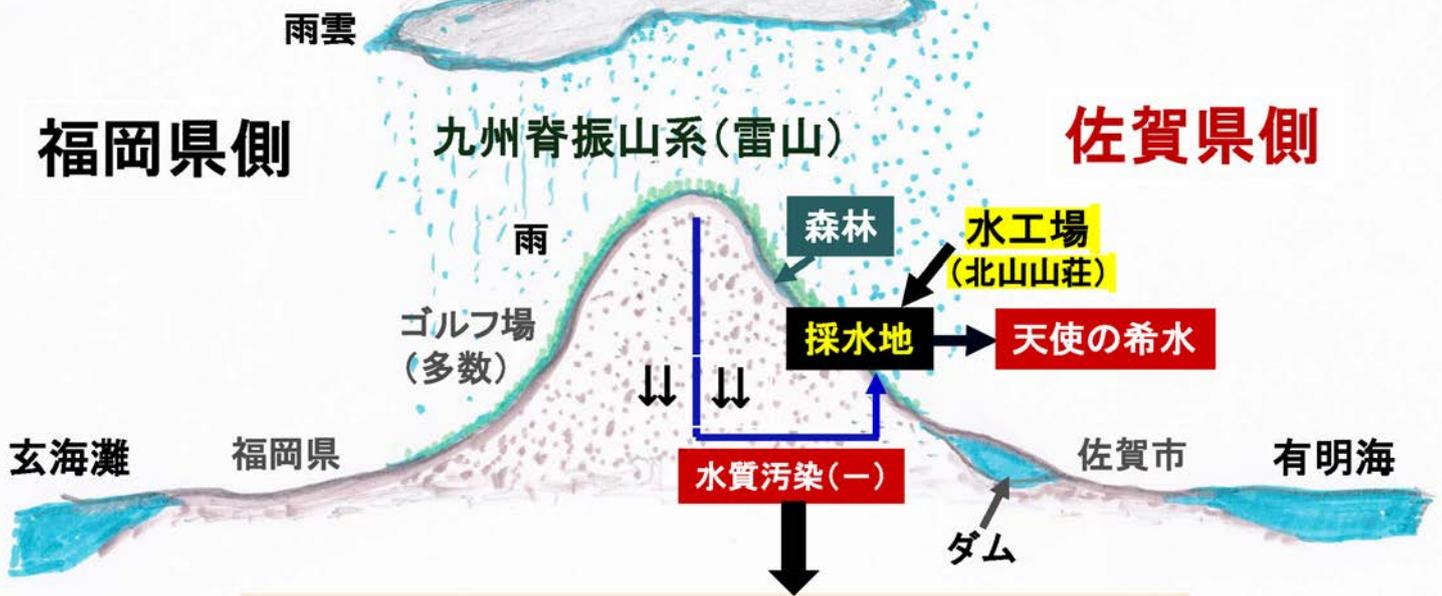
尚、天使の希水の一般細菌は 0/ml、亜硝酸態窒素 0.004mg/L以下(限りなく0に近い)

「天使の希水」の原水は、厚労省基準(上記)とEUのCODEX基準(国際規格)の全てを満たした世界でも類のない非加熱天然水です。「天使の希水」は殺菌・除菌が不要のため原水に溶け込んでいる光合成機能をもつ微生物(善玉菌)は生きています。天使の希水が13年間腐敗しない理由は、光合成する微細藻類が活着しているからです。

# 地球（森林）は天然水の濾過装置

水は“自然環境”が命！

採水地  
佐賀市富士町下無津呂  
北山山荘



天使の希水が13年間腐敗しない理由

- ①採水地の環境：水工場の上流（山側）には、ゴルフ場・ダム・家畜（糞尿）・工場・産業廃棄物・生活排水などが一切ありません ②原水の温度：真夏でも、真冬でも、一年中「15.6℃」と安定しています ③採水地：水工場で直接ボトリングしています ④加熱殺菌・逆浸透膜など一切の加工を行っていない。 ⑤健康に良い。  
※天使の希水は厚労省基準とEUのCODEX基準（上記の①・②・③・④・⑤）をすべて満足しています。

## 「光合成」の役割

夏、ダムや池の水温が上昇すると水中の「溶存酸素量」が減少し、魚が浮かんできます。

冬、薪ストーブの酸素量を減らしていくと火はやがて消えます。

人間は、水（ミネラルウォーター）やストーブの中の溶存酸素量が多いか少ないかを肉眼で見分ける事が出来ません。人間が健康に生きていくためにミネラルウォーターの「溶存酸素量」の多・少を知ることが、健康を維持するためにも重要です。溶存酸素を多く含んだ生きた非加熱天然水は腸の粘膜を健康にします。これはとても重要な情報です。つまり、光合成する非加熱天然水は免疫工場の腸内細菌叢（腸内フローラ）を活発化させ、免疫力（自然治癒力）を高める機能を持っていると教えてくれています。

水の“見える化”の実験で分かったことは、地球上にクリーンな空気と光合成のクリーンな水、そして栄養が満足にあれば、人間は自然の力（太陽→光合成）によって病気知らずで、元気に長生きが出来ます。人間は、水と空気と土、そして太陽（光合成）があれば、どこでも生きることができるのです。私は水と空気と森の管理人として、山林に自然環境を破壊する太陽光発電の設置に反対します。皆んなで日本の豊かな自然環境を守りましょう！

クリーンな水と空気、太陽（光合成）に感謝！

# 光合成する天然水に殺菌効果を発見

私は34年間福岡市で産婦人科麻酔科医院を開業していましたが、その中で私の実家の佐賀市富士町の地下から汲み上げた天然水の「天使の希水」が原因不明の皮膚感染症や蓄膿症などに功を奏した事例をたくさん経験しました。天使の希水を原因不明の皮膚感染症（褥瘡、掌蹠膿胞症・蜂窩織炎・外陰部ヘルペス、アトピー・蓄膿症など）に噴霧すると、それらの症状が見事に改善したのです。

- ・難治の皮膚感染症（褥瘡）が天使の希水を噴霧しただけで2か月で治った
- ・天使の希水を長期保存すると、溶存酸素の上昇（通常は低下）が認められた
- ・天使の希水は13年間腐敗しない
- ・その他の水質検査や豆腐の実験などから、殺菌作用をもつ光合成の天使の希水を新型コロナ感染症の患者さんの鼻腔に噴霧すると新型コロナの炎症を抑えることが可能ではないかと期待しています。

「天使の希水」の臨床応用編として、症例の写真を紹介します。



## 褥瘡のケース

部位は下肢、年齢80才位、3年前から患部を水道水で洗浄していたが改善しなかった。水道水での洗浄と皮膚科医処方の軟膏を中止し、「天使の希水」を褥瘡に噴霧すると約2か月で完治した。光合成する水には殺菌作用がある事が分かった！



## 首に痒みを伴った皮膚病

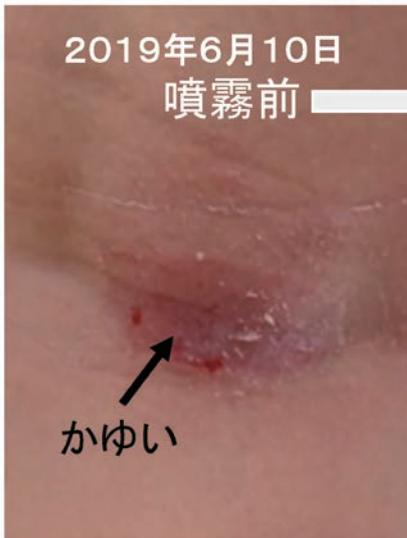
34歳の妊婦、3年前より皮膚（首）に痒みが出た、皮膚科を受診するも原因不明。痒みが強くなれば皮膚科でステロイドを処方されていた。今回、妊娠したためにステロイドを塗っていかどうかを訊ねられた。ステロイドを止め、天使の希水だけを噴霧する様に指示した。痒みは2週間後に軽減、2か月後には完治した。

# 天使の希水を噴霧しただけで治癒



## 掌蹠膿疱症

この症状が7年前から続いていた。あらゆる治療を行ったが、改善の兆しは見られなかった。皮膚科での治療は一切やめ、天使の希水を手に4～5回（1日）噴霧した。約2か月で完治！



## アトピー

写真は足関節、カユミのためいつも掻いていた。皮膚科でステロイドを処方されていた。ステロイドを止めさせ、天使の希水を噴霧した。1ヵ月後には痒みはほとんど無くなった。2ヵ月後には完治した。



## 乳幼児の発熱と皮膚の炎症

高熱（38.5℃）と皮膚の赤身（炎症）、場所は自宅、こどもに天使の希水を飲ませ、皮膚に噴霧した。1日様子をみたが熱が下がったため小児科は受診しなかった。写真は4日目であるが、実際は翌日には完治していた。



## オムツかぶれ（肛門周囲炎）

生後1ヵ月の赤ちゃん、オムツかぶれがひどくなりステロイドを塗ったところ、さらにひどくなった。ステロイドを止めさせ天使の希水だけを噴霧する様に指示した。2週間で完治。この事例を契機に退院時に天使の希水をお土産にわたした。その後は同様の肛門周囲炎は一例も出なくなった

# なぜ現役の産科医が水事業を？

久保田が水会社風（かぜ）を突然に興したキッカケは、3・11の福島原発事故でした。水が放射能に汚染されている危険性があるので人工乳はひかえて出来るだけ完全母乳にしてください、と厚労省が発表したからです。母乳が殆ど出ない時期（生後3日間）に人工ミルクを飲ませなければ、赤ちゃんは飢餓（脱水+低栄養）に陥り、発達障害を増やす事を知っていた私は、ためらうことなく水会社をつくる決心をしたのです。

自分が生まれ育った自宅の裏山に、昔から腐れないきれいな水が出る事を知っていた私は、4月初めにはボーリングをはじめ、福島の赤ちゃんに一刻も早く粉ミルクを溶かす安全な水を送ってあげる予定でした。ところが…

## 久保田史郎の予防医学の歴史！

医学博士 / 元久保田産婦人科麻酔科医院院長 福岡市平尾で開業（1983～2017）

開業34年間で、16,000人の赤ちゃんを取り上げた。専門は産科麻酔医 医療事故ゼロを誇る！

予防医学の観点から新生児の体温管理、栄養管理、冷え性対策、乳幼児突然死、無痛分娩など独自の研究を行い全国からも視察や講演依頼が相次いだ。

2015年3月自由民主党本部 障害児者問題調査会で「発達障害の原因と予防」について講演。

出生直後の赤ちゃんの低体温症と生後3日間の飢餓を防ぐための予防医学の重要性を訴えた。

### 国連 SDGs (MDGs) を佐賀から世界に発信！

#### ■国連 MDGs 8項目と久保田史郎の研究成果（1983~2024）

- ①極度の貧困と飢餓の撲滅 ..... ➡ 生後5日間の飢餓が発達障害の一番の原因
- ②初等教育の完全普及の達成 ..... ➡ WHOの初期教育 完全母乳が飢餓を誘発
- ③ジェンダー平等推進と女性の地位向上 ..... ➡ 人格が平等である（すべてが平等ではない）
- ④幼児死亡率の削減 ..... ➡ 乳幼児突然死（SIDS）は熱中症が原因
- ⑤妊産婦の健康の改善 ..... ➡ 妊婦と胎児の病気は母親の冷え性と肥満が原因
- ⑥HIV/ エイズ、マラリア、コロナ等の疾病の蔓延防止 ..... ➡ 空気の汚れが病気をつくる
- ⑦環境の持続可能性確保 ..... ➡ 持続的な自然環境保護（クリーンな水の確保）
- ⑧開発のためのグローバルなパートナーシップの推進 ..... ➡ 先進国（韓国・台湾・米国など）との共同研究

久保田は過去30年間 国連ミレニアムサミット（MDGs：2000～2015）の研究に打ち込んできた。上図のMDGs ①~⑤はこの30年間でほぼ完成させていた。⑥と⑦の回答が今回の「水と空気に着目した予防医学」である。MDGsの研究で分かったことは、**「予防医学なしではSDGs(MDGs)の持続可能な開発目標達成はない」という結論だった。**先進国で少子化が進む今だからこそ、予防医学の重要性を佐賀から世界に向けて発信出来るのは産科医の久保田以外にいない。生意気にもそう考えた私は、SDGs 予防医学研究会を2024年11月に発足、女性を対象に「安産大学」を開講する。全国の仲間に向けてzoom オンライン講座も始める。場所は佐賀古湯の笹沢左保記念館。産科医の久保田がなぜSDGsの研究を始めたのか、一番の目的は発達障害を防ぐためだった。予防医学の力で隣人・隣国を**「愛する」**ことが世界平和、ひいては予防戦略に繋がると考えていたからです。乞うご期待！

世界平和こそが久保田史郎の夢  
令和6年8月28日

# 新型コロナ対策の落とし穴

パチンコ店では クラスターを防いでいた！

3密の前に①・②・③を！

- ① エアコンの消毒（定期的）
- ② 空気を入れ替える強力な換気扇（夏用・冬用）
- ③ 空気清浄機の設置

●●●●先生

産科医の久保田史郎と申します。パチンコ店ではクラスターが何故か発生しておりません。

昨日、医療ジャーナリストとして、パチンコ店取材いたしました。

佐賀市の某パチンコ店でしたが、凄い数の換気扇が設置されていました。空気がクリーンで、タバコの匂いがほとんどありませんでした。エアコンは月2回 業者が定期的に清掃しているそうです。パチンコ店を是非ご見学ください。ホテルや介護施設などはエアコンだけの設定で、空気清浄機での換気が満足に行われておりません。新型コロナウイルス感染症について追跡調査ができない程、感染者が増えておりますが、エアコン感染が最も疑われます。エアコンの清掃・換気・空気清浄機の設置を積極的にお勧め下さい。

夜の新宿・池袋が悪いのではなく、エアコンの清掃を怠っていたことこそがクラスターの一番の原因です。都立●●病院では院内感染が発生し多くの死亡者がでましたが、エアコンからウイルスをばら撒いていたのではないかと考えられます。エアコンのウイルス検査の徹底をお願いします。空気感染の防止をしなければ、2波、3波はいまから驚異的に増えると予測されます。新型コロナから日本の経済・医療崩壊を防ぐためには、パチンコ店の衛生管理を見習いましょう。パチンコ店は危険と報道されておりましたが、病院より安全です。このことを全ての業種にもお伝え下さい。

久保田史郎

2020年7月4日

## 新型コロナウイルスは空気を介して感染しうる

屋内では浮遊菌を減らすために空気清浄機を使うことを勧告している

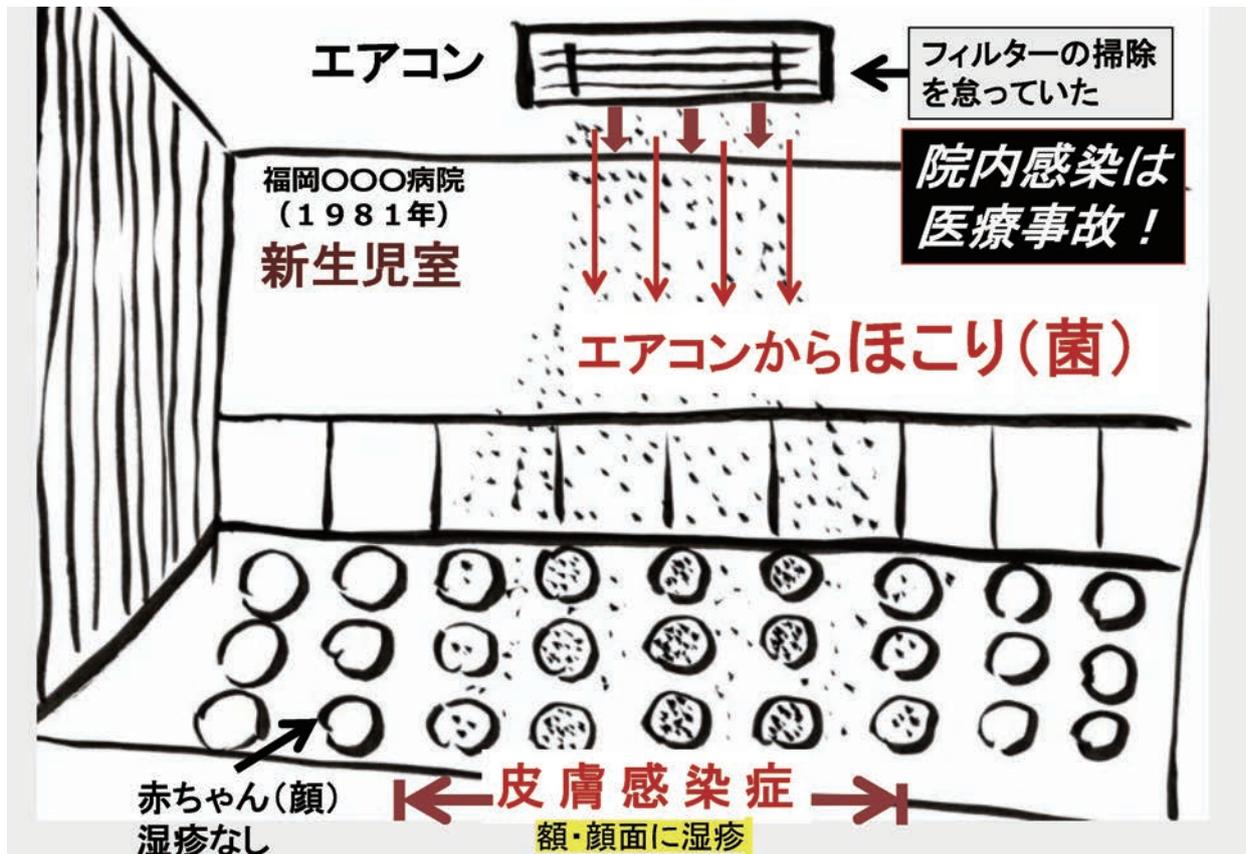


(CNN) 米疾病対策センター (CDC) が公式サイトに掲載しているガイダンスを改訂し、コロナウイルスは一般的に、呼吸などによって空気中に漂う飛沫 (ひまつ) や微粒子を通じて拡散し得ると指摘した。「新型コロナウイルスを含む空気を浮遊するウイルスは特に感染力が強く、簡単に拡散する」としている。

CNN 記事より引用

<https://www.cnn.co.jp/usa/35159860.html>

# 原因不明の皮膚感染症は“エアコン”からの空気感染だった！



上図は、私が約40年前に勤務していた福岡●●病院の新生児室の見とり図です。新生児室にはいつも20人～30人の赤ちゃんがいました。新生児の額・顔面に湿疹（黄色ブドウ球菌）ができ、毎日のように皮膚科を受診していました。おかしいと思った私は、新生児室をのぞきに行くと、湿疹の赤ちゃんは新生児室の中央に集中しており、天井をみると大きなエアコンの吹きだし口が部屋のだ真ん中にありました。私はエアコンが菌をばら撒いていると考えフィルターを取外すと、すごいホコリが付着しておりました。フィルターを新品に変え、新たに空気清浄器を設置いたしました。それ以来、皮膚科を受診する赤ちゃんは姿を消したのです。新生児室の婦長さんが私の所にやってきて、今回のエアコンのホコリの件は“内密”にお願いしますと・・・耳元で囁いて何事もなかったかのように戻っていきました。医療事故の多くは病院側の都合で原因不明と診断されることが多く、真実は隠されているのが現実です。婦長さんの“内密に”の言葉が、コロナの第10波・第11波を引き起こしているのかも知れません。

## 病気を防ぐ予防医学こそが最先端医療！

1983年私は福岡市に久保田産婦人科麻酔科医院を開業しました。開業間もない頃、東京の某大学病院でMRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）が流行って、新生児や術後患者さんが感染症で亡くなっていました。感染症の研究者たちは入院部屋やトイレのドアノブの消毒は徹底されていましたが、エアコンのフィルター掃除については指導がありませんでした。不安になった私は当院のエアコンにMRSA菌が付着していないかどうかを調べました。すると一室からエアコンのインとアウトからMRSA菌が出たのです。空気清浄機を調べると吸い込み口のインからは出ましたが、吹出し口のアウトからは出ませんでした。私はそれ以来、当院の分娩室・手術場・新生児室・外来をはじめすべての部屋に空気清浄機を設置、院内感染を防いできました。当院からの院内感染は34年間で一例も出ませんでした。感染症は治療ではなく、予防することの大事さを34年間の開業で学びました。日本の医療は優れていますが、それ以上に、病気を防ぐ予防医学こそが最先端医療であることを再確認しました。

# 新型コロナは“空気感染”です！

新型コロナウイルスは空気感染しないと言われていました。しかし私は、ダイヤモンド・プリンセス号が日本に着いたときからエアコンによる空気感染を疑っておりました。ダイヤモンド号が横浜港に着いて、患者さんが3つの病院に搬送され、死亡者数は搬送先の病院により大きな差が出ました。その原因はどこにあるのでしょうか。死者を一人も出さなかった自衛隊中央病院は感染症専門の病院であったため、日頃から空気感染の予防を徹底しておりました。つまり、死亡者数は感染症対策が厳重に行われていたかどうかによって左右されていたのです。コロナはもちろん、MRSA・インフルエンザ・ヘルペス・ヘルパンギーナ・溶連菌・手足口病など、原因不明の感染症対策は、先ず最初にエアコンからの空気感染を疑うべきです。それが見逃される理由は、ホコリに付着した菌・ウイルスは肉眼では見えないからです。エアコンの定期的な手入れは徹底されていますでしょうか？新型コロナの再発に歯止めが効かない今、国はエアコンからの空気感染を防ぐためのプロジェクトチームを立ち上げ、対策を講じるべき。都知事は死亡者数が多かった都立●●病院のエアコンの細菌検査を公表すべきです。このままでは、日本は感染症の増加で医療は崩壊します。

## エアコンの長所と短所

エアコンは猛暑時の熱中症の予防に不可欠です。それはエアコンの長所ですが、同時に短所があることを皆様は知っておかなければなりません。エアコン（フィルター）の手入れを怠ったホコリだらけの状態での運転、エアコンはあなたの周りに目に見えないホコリ（ウイルス）を巻き散らかしているのです。特に手入れの行き届いていないエアコンはホコリ（細菌・ウイルス）噴霧器と考えるべきです。

全国の病院でクラスターが多いのはそのためです。咳・クシャミがでたら危険信号、窓をあけ空気を入れ替えてください！空調設備がない低開発国ではクラスターは起こっておりません。何故ならば、低開発国では窓を開けた状態で自然の換気が行われ、ホコリを噴霧する空調設備がないからです。新型コロナ退治の基本は、まず空気をクリーンにすることから始まります。

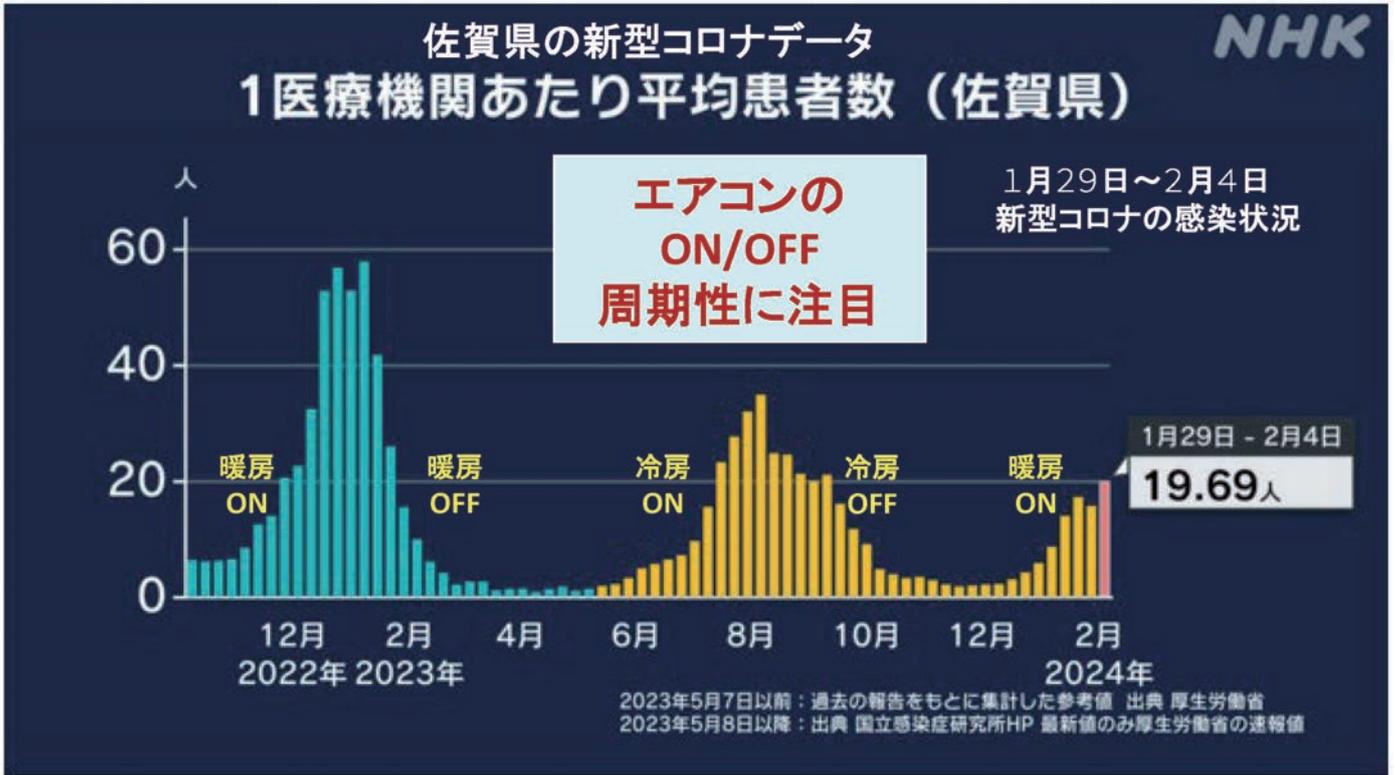
## 新型コロナ退治はエアコンの消毒と換気が基本

- ①定期的なエアコンの消毒
- ②強力な換気扇
- ③空気清浄機でクラスターを防いでいた



パチンコ店ではクラスターが発生していません。パチンコ店が安全な理由は、死者を一人も出さなかった自衛隊中央病院と同じく、定期的にエアコンの清掃をこまめに行い、その他にも強力な換気扇と空気清浄機が設置されていたことです。都立●●病院でクラスターが発生、死者がたくさん出た理由は、エアコン（フィルター）の清掃が疎かになっていた可能性が強いです。都知事はテレビなどでパチンコ店が危険と公表されておりましたが、当時の都立病院より、パチンコ店の方が衛生管理が厳重に行われていたと思われます。死者をたくさん出した都立病院では最近クラスターは発生していないようですので、現在はエアコンの清掃が厳重に行われていると思われます。東京都保健所はクラスターの原因は何が問題だったのか、真実を公表すべきではないでしょうか。

# 新型コロナの周期性とエアコン（ON/OFF）との関係



## 新型コロナ感染症は夏・冬に多いのは何故？

コロナ患者はエアコンの使用頻度が高い真夏、真冬で多くなり、冷暖房の必要性が少ない快適な季節（春・秋）では増えていません。コロナは温くなる春から夏に向かって南国沖縄から増えはじめ、秋になると収束します。冬になると寒い北海道（旭川）から増え始め、春になると収束します。

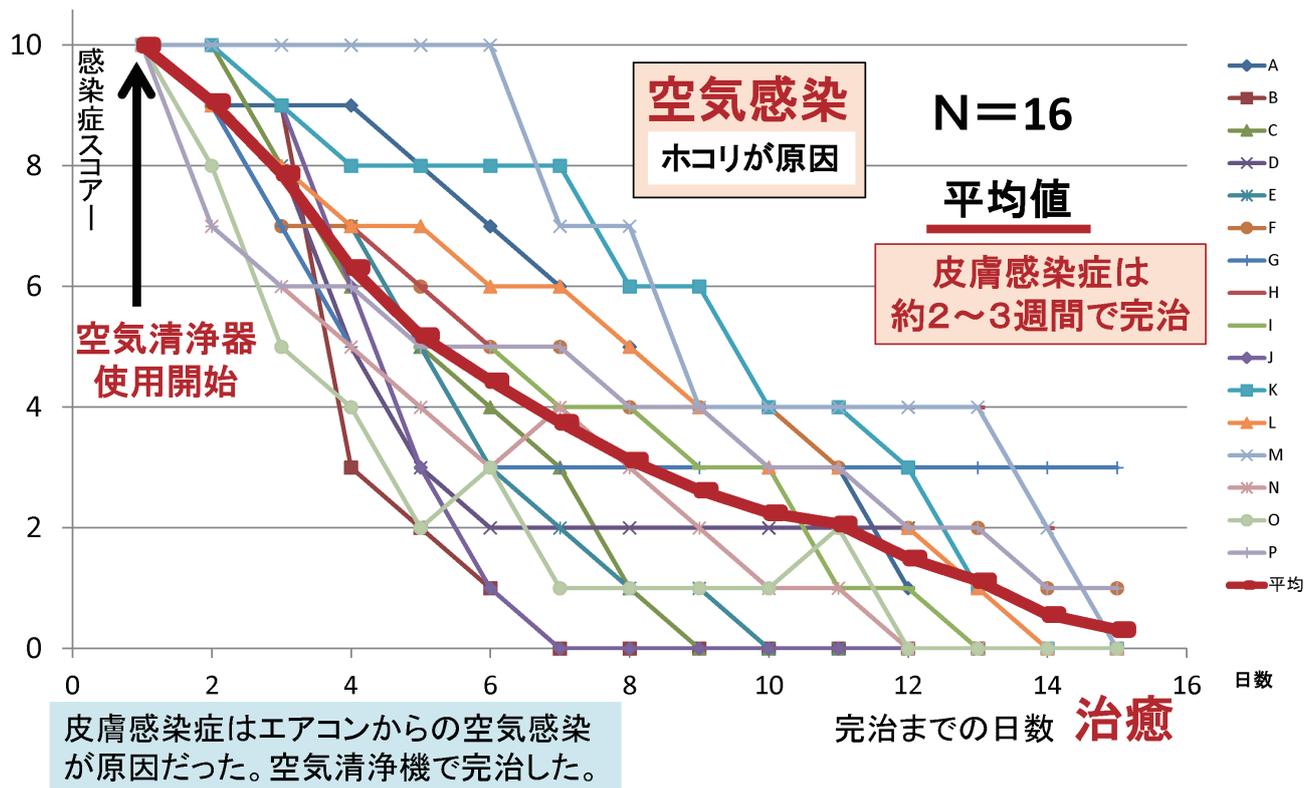
エアコンの手入れを怠り、ホコリがついたまま締め切った部屋で冷暖房を入れるとホコリを部屋中にまき散らします。皆さんは細菌・ウイルスが付着したホコリ（空気）を鼻腔・口腔から肺に取り入れています。咳・クシャミは呼吸器感染の危険信号です。エアコンの清掃をこまめにやりましょう！



院内感染は医療事故



# 「空気清浄器」に皮膚感染症を防ぐ効果



## 空気清浄器で皮膚感染症を予防する！

写真は、赤ちゃんの額・顔面に湿疹ができた生後1~3カ月目の新生児16人を対象としました。



空気清浄器 (前)

2週間後

乳幼児の湿疹に多くの母親が悩んでおられました。母親にスキンケアを指導。自宅に空気清浄機を設置しました。約2週間で湿疹はほぼ完治し、薬剤は一切使用しませんでした。これは、スキンケアと空気清浄機による室内のホコリ除去が、自然治癒力を高め、菌の感染力に打ち勝ったためと考えられます。



空気清浄器 (前)

2週間後

同様の原理で、新型コロナウイルスも空気清浄機で除去することで、呼吸器症状を予防できます。手洗い・マスクも重要ですが、空気の汚れを除去する空気清浄機の設置は、より根本的な感染対策です。つまり、室内の空気をクリーンにすることが、新型コロナ対策の基本です。

しかし、国は空気清浄機の有効性を認めていません。34年間の産科医としての経験から、家庭や職場の全てのエアコンに高性能フィルターを設置することを強く推奨します。

# 療養施設（ホテル）は安全か？

## クラスターは、セントラル方式空調のホテル・病院に多発

- ① エアコンが掃除（消毒）されていない
- ② 室内の換気量が少ない（無いに等しい）
- ③ 空気清浄器が無い

★ ホテルは密室で 10 日間 室外に出られない

（ホテルの狭い室内 ⇒ 運動不足 ⇒ 免疫力低下 ⇒ 病状悪化）

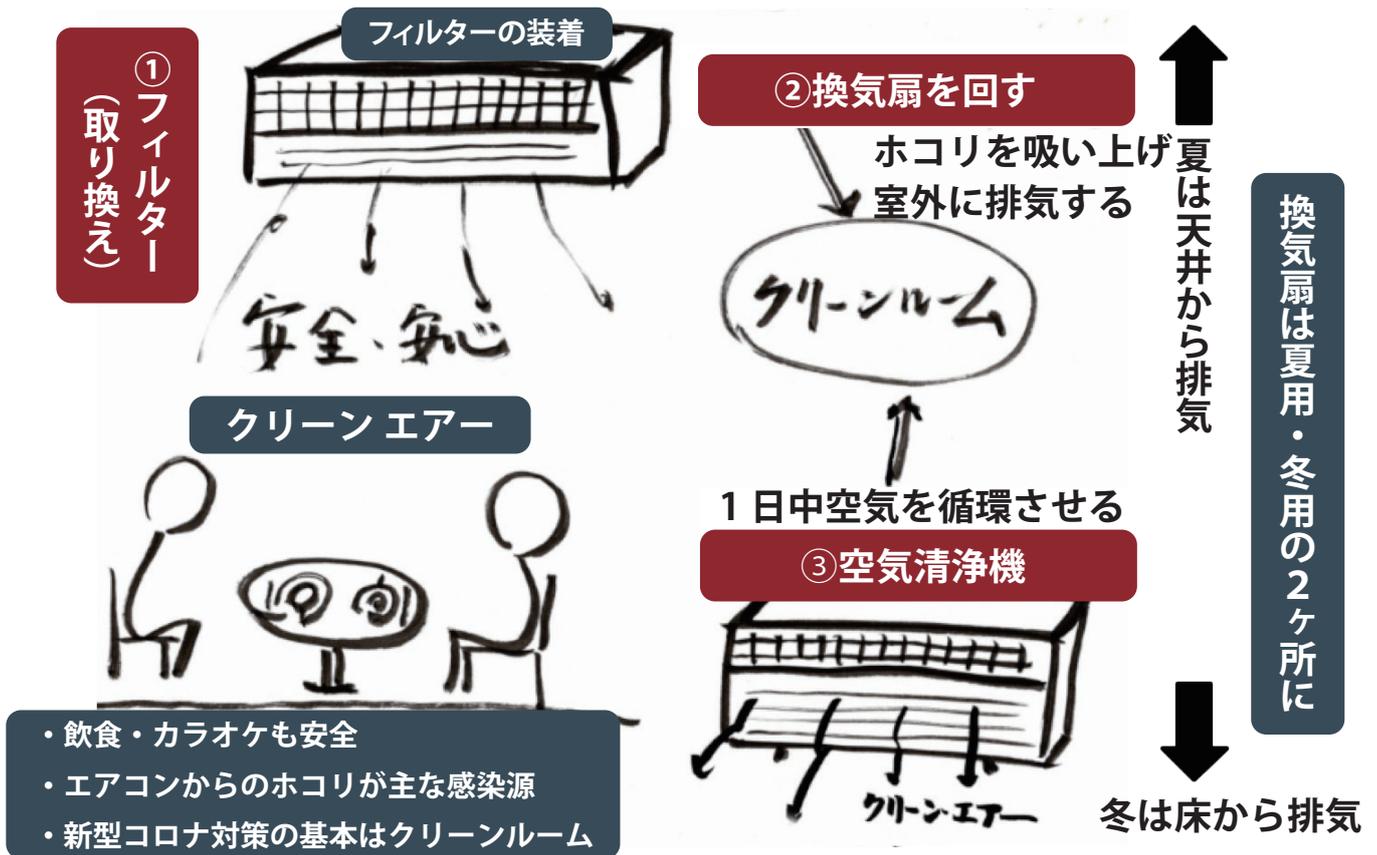
- ・ ホテルに入って3日目頃から手足が“痒く”なる
- ・ 4～5日目頃から、手足に“湿疹”が出来る
- ・ 咽頭痛・ヘルペスなどの訴えがある

療養施設（ホテル）での長期滞在中に発生した痒み・湿疹の原因はエアコンに付着した菌・ウイルスが原因。ホコリに新型コロナウイルスが付着していれば、鼻腔から気管⇒肺に吸い込む。病院やホテルに使用されている「ビル用マルチエアコン」ではクラスターが発生して当然。密室のホテルや病院では空気をクリーンにしなければクラスターはいつでも発生する。とくに病院は、エアコンを清掃・消毒する義務がある。新型コロナなどの空気感染は主に病院から拡散する。行政は、全国民へ“空気感染”の警鐘を鳴らすべき！

## 多くの病院・ホテルのエアコンは細菌噴霧器！



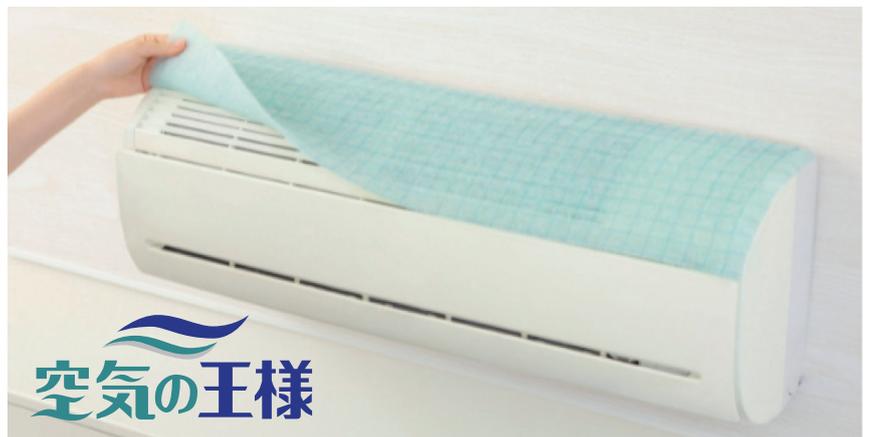
# 久保田式の①・②・③で呼吸器感染を予防



## エアコンにも「AT254 フィルター」を！

### エアコンが空気清浄機に早変わり

- ① エアコンが AT254 フィルターの装着で空気清浄機に早変わり
- ② フィルターの装着でエアコンの掃除が不要に (清掃代金が節約)
- ③ 空調の効きがびっくりするほど良くなる
- ④ 電気代が節約
- ⑤ フィルターの汚れを“見える化”する (人間は汚れが見えないと掃除しない)



● フィルターの汚れは、室内の空気の“汚れ”のバロメーターとなる。AT254 フィルターで空気を洗うと、これまで原因不明と診断されていた呼吸器感染症は激減すると予測する。コロナが収束しないのは専門医がエアコンからの空気感染を見逃し放置していたからではないか？ **フィルターのホコリを“見える化”**する事で、室内の空気の汚れを察知することができる。

近年、日本で呼吸器関連の病気が増えたのは、空気の汚れに対する予防医学の概念がなかったからと考える。専門医の反省点はエアコンのホコリ（ウイルス）を見逃した事である。空気が汚れた先進国では、“空気を洗う”新時代に突入するであろう (医学博士 久保田史郎)

天使の希水 水工場  
2012年撮影

## 「水と空気と森の管理人」久保田史郎からのメッセージ

水中に溶けている溶存酸素濃度の高い・低い、人間だけでなく、植物や魚介類などの生育にも影響を及ぼします。人間（大気中）・植物（土中）・魚介類（水中）の全ての生き物は、体内（細胞）に酸素と栄養を摂り入れ成長しています。自然界のクリーンな水とクリーンな空気は全ての生き物を元気に発育させるために不可欠です。ところが、水に溶けている「溶存酸素」が何らかの原因で減少すれば植物の発育は悪くなり、魚も生きていけません。しかし、水中に溶け込んでいる溶存酸素量を増やすことによって、魚（メダカ）は元気を取り戻し再び泳ぎ始めます。人間も溶存酸素を多く含んだクリーンな水を飲むと、植物（ワサビ）や魚（メダカ）と同様に元気を取り戻します。人間が病気をしないで、より健康に、より長生きするためには溶存酸素を多く含んだ光合成する免疫力を上げる非加熱天然水を飲まれる事をお勧めします。

産科医 久保田史郎が提唱する「正常をより正常に」の医療理念が病気を未然に防ぐ予防医学、それがクリーンメディケーションです。水もクリーン、空気もクリーン、また人間もクリーン（誠実）でなければ世の中は幸せになりません。日本で始めた「水と空気のクリーン運動」が世の中を豊にし、世界平和に貢献できる事を願っています！

水と空気と森の管理人 医学博士 久保田史郎

株式会社 風 

久保田予防医学研究所  
kubotahp@gmail.com

水と空気と森の管理人  
医学博士 久保田 史郎

〒840-0535 佐賀市富士町下無津呂1559  
天使の希水 HP <https://tenshino-kisui.com/>

 **0952-57-2005**

営業時間：AM10:00～PM 5:00  
定休日：水曜・日曜・祝祭日